

< 報告 >

米国の高齢社会をささえる
American Society on Aging (ASA) の活動
— 2015 Aging in America Conference に参加して —
山本 武志 (札幌医科大学)

2015 Aging in America Conference が米国シカゴの Hyatt Regency Chicago にて、3月23日～27日に開催された。本学の船木講師が研究代表者である研究班（科学研究費基盤研究（C）都市部及び農村地域における高齢者の孤立化に関する実証的・文献学的研究）を代表して山本が、3月25日の Poster Session にて「Experience and history of daily life of the elderly living alone: interview survey in Japan」というタイトルで報告をした（図1）。本研究はすでに本研究班が同誌で報告しているように¹⁾、わが国の高齢化の現状、高齢者の生活・QOL・幸福感について、ひとり暮らし高齢者の生活視点から明らかにすることを目的としている。

2015 Aging in America Conference を開催している American Society on Aging (ASA) は、1954年に Western Gerontological Society として設立され、加齢の身体的・精神的・社会的、経済的、霊的側面に興味のある様々な職種（実践家、教育者、管理者、為政者、ビジネスマン、研究者、学生）5,000人が加盟している無二の団体である。ASA は年次カンファレンスを開催する以外に、Agingに関する出版物の発行や Webinar の開催など、会員の教育・学習を発展させる多くのリソースを提供している。たとえば、ASA のニュース・ペーパー「Aging Today」はタブロイド判毎月15ページの分量があり、これが（海外の会員にも）隔月発行で送られてくる。また、Webinar が週に1回程度の頻度で開催されており、規模が大きだけでなく活動も活発である。

2015 Aging in America Conference はおおよそ3,000人が参加した。日本老年学会（日本老年医学会、日本老年社会学会、日本基礎老化学会、日本老年歯科医学会、日本老年精神医学会、日本ケアマネジメント学会、日本老年看護学会の7学会合同の学術会議）に比べれば小さい規模であるが、母体が1団体であることを考えれば規模の大きいカンファレンスである。このカンファレンスではなるべく多くの人に参加してもらうための（日本の学術会議では考えられないような）仕掛けがあり、たとえば、カンファレンスについて SNS に書き込んだり、他の人を enroll したりすると参加費が50ドル割引になる。また、シンポジウム毎にその終了時に数台のタブレット PC が抽選で参加者に贈呈される。米国の高齢者サービスに関する市場は、日本のように公的なサービス（介護保険等）が中心で営利団体の活動が一部の市場に限られているのとは違って、その高齢化率の低さから見てもこれからの発展が期待されている大きな市場であることがいくつかのシンポジウムを見ても明らかであった。スポンサーシップについては細かいことは分からないが、関与している企業の規模や金額の大きさは日本の比にならないことがうかがえる。

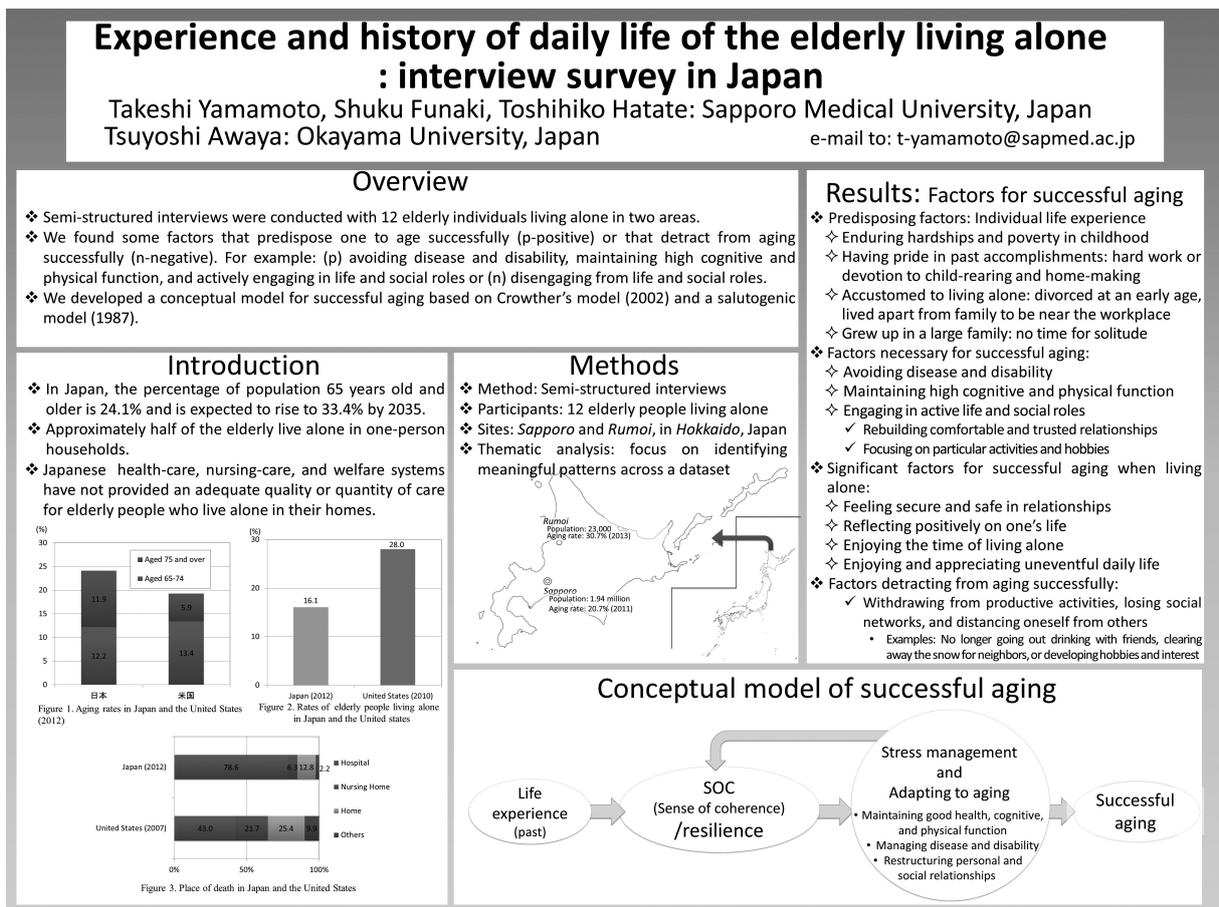
なお、2016 Aging in America Conference は Washington DC の Marriott Wardman Park and Omni Shoreham Hotels で3月20日～24日に開催される。Conference の参加費は590ドル(ASA

のメンバーでない場合は 775 ドルである) だが、Presenter の登録費は 460 ドルで、ただの参加よりも低く設定されていることも興味深い。東洋からの参加者は少ないので、多くの方におすすめしたいカンファレンスである。

資料 (報告概要)

札幌市 (都市) と高齢化が著しい地域 (留萌市) の 2 地域に在住の独居高齢者 12 名を対象とする半構成的面接調査を行った。ひとり暮らし高齢者の生活状況と、それを支える生活体験・生活史を抽出した。自立した生活の背景には孤独に強いまたは自立生活を体験している生活史が認められ、ひとり暮らしを自由な生活を送ることができるポジティブなものとして捉えている発言が多く認められた。ひとり暮らしをポジティブに営むことの先行要件は、SOC(Sense of Coherence) 概念のいうところの「人生経験の質」と、それによって形成される SOC であることが推察された。

図 1. 2015 Aging in America Conference での報告に使用したポスター



- 1) 船木祝, 山本武志, 旗手俊彦, 栗屋剛 (2015) 高齢者の一人暮らしを支えている精神的・社会的状況, 北海道生命倫理研究, 3, 13-26.